

ブドウの病害情報第1号 (ブドウべと病、ブドウ黒とう病)

令和5年6月2日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

平年よりも梅雨入りが早い状況です。
ブドウにおける病気の発生に注意しましょう。

東海地方は5月29日頃に梅雨入りしたとみられます(平年より8日早い)。

ブドウの病害発生に好適な条件が続くと予想されますので、感染拡大を防ぐため防除に努めましょう。

1 ブドウべと病

5月下旬に行った巡回調査(県内17ほ場調査)において、ブドウべと病の発病葉率は0.18%(平年0.12%、前年0.17%)と過去10年で3番目に高く、**発生時期も平年よりやや早い状況**です。

発病した葉や果実は伝染源となるので、園外に持ち出すなど適切に処分しましょう。**連続した降雨で感染が急速に拡大する**ので、気象予報に注意し、薬剤散布(ジャストフィットフロアブル(注意:収穫30日前まで)やランマンフロアブルなど)で防除に努めましょう。なお、県内において、平成23年にQoI剤(FRACコード:11)の耐性菌の発生を確認しているため、本病に対して使用するのは控えましょう。また、農薬によっては幼果期以降の散布で果粉の溶脱や果実の汚れ等を生じることがあるので、注意しましょう。

2 ブドウ黒とう病

5月下旬に行った巡回調査(県内17ほ場調査)において、ブドウ黒とう病の発病新梢率は0.18%(平年0.46%、前年2.72%)で平年並の状況です。しかし、令和4年6月下旬に行った巡回調査(県内18ほ場)において、本病の発病新梢率は過去10年で最も高い状況でした。そのため、伝染源が多い可能性があるため注意が必要です。

本病は病斑に形成された分生子が雨滴により飛散して感染を繰り返します。本病は降雨が続くと多発するため、今後の気象予報に注意し、薬剤散布(カナメフロアブルやマネージDF(注意:収穫21日前まで)など)で防除に努めましょう。また、発病部位は伝染源となるので見つけ次第除去しましょう。特にシャインマスカットは巨峰よりも本病に弱いので防除を徹底しましょう。